

## 印西大師 第38番 六軒・巖島神社

1 名称 (No.038)〔手引鏡：六軒〕〔資料館：弁天〕〔行程表：弁天〕

2 場所 印西市大森4333 巖島神社

浅間神社から道程約1,380m 神社の本堂前にある。

GPS座標 35.841101366776, 140.14253620650203

3 由緒 「弁天様」と呼ばれ、人々に親しまれている六軒巖島神社は、この地の開拓に携わった宮島勘右衛門が安芸の宮島(広島県)より勧請したものとされています。「六軒の弁天様」は巖島神社と水神社の合祀ですが、巖島神社の祭神は市杵島姫命で航海・芸術の守護神。一方水神社の祭神は罔象女神(みつはのめのかみ)。(印西名所図会)

4 御堂 第38番札所は昭和3年2月1日に平賀離島(花島山)から遷座したもの。大師堂の中に丸彫の御大師様が2体あり。右の御大師様の台座に「三十八番」とある。なお、隣にも大師堂があり、こちらにも御大師様が2体ある。

5 境内 大師堂のほか、巖島神社・水神社の本殿・拝殿、稲荷神社、印西七福神(弁才天)、横綱鳳谷五郎顕彰碑などがある。弁天川の橋を渡ったと

ころに公衆トイレがある。

6 写真 (2019.01、2021.10、2022.01、2023.01撮影)



第38番大師堂



第38番大師堂の御大師様



巖島神社



横綱鳳谷五郎顕彰碑



弁才天



相馬霊場八十八ヶ所繁盛講参拝記念

7 情報

(1) 印西大師 第38番 六軒弁天 御詠歌 (泉倉寺本による)

補陀落(ふだらく)や此処(ここ)は岬の船の棹 取るも捨(すつ)るも法の蹉跎山(さだやま)

四国八十八ヶ所 第38番 真言宗豊山派 蹉跎山(さださん) 補陀洛院(ふだらくいん) 金剛福寺(こんごうふくじ) 写し

(2) 昭和3年に花島から遷座

「印西三十八番」とある台座の左面に「昭和三年二月一日 平賀村 花島より 寫」とある(印西町調査報告書)ことから、理由は不明だが、昭和3年に花島山から遷座したようだ。台座の右面には滝田氏ほか6名の世話人の名があることから、この方々が遷座に尽力されたのだろう。六軒地区の繁栄にもかかわらず、隣の木下地区には第7番と第30番があるのに六軒地区は番外のみであったことから、ライバル心もあって大師講においても本番札所としての扱いを求める声が強くなったのかもしれない。

(3) 新四国相馬霊場八十八ヶ所

「相馬霊場八十八ヶ所 繁盛講参拝記念の碑」(大正11年4月1日建立)がありました。取手市を中心とし、我孫子市、柏市にまで及ぶ新四国相馬霊場八十八ヶ所は、観覚光音禅師が発願主となり、宝暦10年(1760年)頃開創したと伝えられています。(猫の足あとHP)

## 印西大師 番外 六軒・巖島神社

- 1 名称 (No.038)
- 2 場所 印西市大森4333 巖島神社  
浅間神社から道程約1,380m 神社の本堂前、第38番大師堂の左隣の御堂  
GPS座標 35.841101366776, 140.14253620650203
- 3 由緒
- 4 御堂 大師堂の中に丸彫の御大師様が2体あり。
- 5 境内
- 6 写真 (2023.01撮影)



番外大師堂(左)と第38番大師堂(右)



番外の大師堂



番外の大師堂の御大師様

## 7 情報

## (1) 四国二十六番

大師堂の柱をよく見ると、おぼろげながら「四国二十六番」と読めます。また、「堂内に小祠あり、中に木像大師像二十六ばん」(印西町調査報告書)とあることから、左にある小さい御大師様はその木像大師像で、二十六番というのもその御大師様に由来しているようです。四国八十八ヶ所第26番の写という意味でしょうか。

## (2) 四国八十八ヶ所 第26番 金剛頂寺 御詠歌

往生に 望みをかける 極楽は 月のかたむく 西寺のそら

龍頭山(りゅうずざん) 光明院 金剛頂寺(こんごうちょうじ) 真言宗 薬師如来 高知県室戸市